

## —若手技術者のコーナー—

## 土木技師として働く自分の将来

## 1. はじめに

私は、平成28年に青森県庁に入庁し、農業農村整備事業における調査計画を2年、農道改良、用排水路整備を1年経験した。地域住民に密着した仕事にもっと携わりたいと考え、青森県庁を退職し、平成31年4月に青森市役所へ入庁した。

## 2. 市役所入庁後の実感

市役所職員として働き始めて3ヵ月ほどが経ったが、仕事内容はもちろん、扱っていた予算の規模など県との違いを多々感じている。県庁時代に所属していた部署では主に委託業務や工事の設計、施工管理などの業務を行っており、窓口対応というような仕事をするのはほとんどなかった。一方、市役所で働いてみて一番驚いたのは市民との距離の近さであった。市民からの問い合わせの無い日が無い状態であり、現場に出向き対応する日々である。体力的にきつい日々もあったが、結果として市民生活の向上に自分が貢献できているという充実感は大きいものであった。

## 3. 土木技師を目指したきっかけ

私が土木に興味をもったのは、2011年3月に発生した東日本大震災がきっかけである。震災被害は甚大であったが、より早い復興を目指し、多くの土木技術者が復興事業に取り組んでいたことを知り、当時高校2年生で進路に迷っていた私は土木に関係する仕事に携わりたいと思うようになった。さらに大学入学後、津波に襲われ大きな被害を受けた都市の一つである宮城県気仙沼市を訪れる機会があった。想像を絶する被災地の現状を目の当たりにして、津波災害の恐ろしさを痛感すると共に、私たちの何気ない生活は常に危険と隣り合わせであることを実感した。この経験から、自分の故郷である青森に住む人の生活の安心・安全を守るために、役に立つことはないかと考えるようになり、青森で土木技師を目指すこととなった。

## 4. 現在の業務

現在は公園施設等の維持管理業務に携わっている。市内には数多くの都市公園や緑地があり、多くの子供からお年寄りまで利用され、市民生活の憩いの場となっている。そのため、より過ごしやすく安心・安全な環境を築くために公園施設の整備、維持することが求められる。また、公園利用者の要望を汲み取り、それに応えられるように、利用者と同じ目線で仕事に取り組むことも重要である。予算が限られているため、最小のコストで最大の効果を発揮できるよう、より多くの視点で業務にあたらなければならない。

## 5. おわりに

土木技師としての私は未熟な部分ばかりで、多くの諸先輩に支えられていることを実感しており、今後は上司や先輩方に指導をいただきながら経験を積み、知識を身につけ、市民からの問い合わせ等に柔軟に対応できる技術者を目標に励んでいきたい。また、職員として、一市民として、それぞれの視点で多角的に考え対応ができるよう、現場に多く足を運ぶようにしていきたい。近い将来は市民の皆様が生活が今までよりよくなったと実感していただける一助になりたい。



遊具点検の様子（右が筆者）

(青森市 都市整備部 公園河川課 高畑 健太)